

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991100098
法人名	社会福祉法人 芳寿会
事業所名	グループホーム 真心の里
所在地	山梨県都留市中央1-1-16
自己評価作成日	令和 年 月 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 10 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都留市の中央に位置している谷村城下町のグループホームです。近くには昔ながらの商店街、歴史のある小学校、町の中心である市役所などがあります。小学校の運動会、都留市のお八朔祭り、谷村のお祭り、自治会で開催しているイベントなどに参加させてもらい地域との交流をしています。地域ボランティアなどが月に1,2度来訪してもらい、和太鼓や日本舞踊などをしていました。現在はコロナ過の為外出制限、面会自粛しています。コロナの情勢を見ながらまた、開催を予定しています。利用者が自分で行えることは積極的に家事などは行ってもらい自立支援に繋がっています。併設している特別養護老人ホームの看護師、同法人の往診医、及びちいきの医療機関と連携し、医療サポートをしています。グループホームでの看取りについても受け入れを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中央に位置され、商店街や小学校、地域の方との触れ合いを大切に今までの暮らしをする、地域の中に溶け込んでいました。コロナ禍のためいろんな制約がされていますが、地域の中で温かく関わりながら生活ができていました。事業所では「できることはやる」いつまでも自立し役割を持ち、生き甲斐のある生活を支援していました。洗濯のできる方は自分で、洗濯物量みはみんなで、特養で使うウエストくりと役割をもって生活されていました。事業所を利用することで張り合いを持ち必要とされていることを感じられる生活支援。それを続けることが、人として尊重され、安心した生活ができると思いました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を玄関、事務所など見やすい場所に掲示し誰でも見えるようにしています。 職員同士のミーティングの際に基本理念に基づくサービスの提供について話し合っています。	理念は法人で作成され、それに基づき基本方針が立てられていました。地域社会の中で、支援を必要とする高齢者の生活と、人間としての権利を擁護されることを目的としていました。管理者は常に支援に入り、職員が理念を理解し、支援につなげられるような体制を整えていました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のイベント(お八朔祭り)等に参加しています。自治会からの回覧版にて連絡をもらって地域の行事なども参加しています。 地域ボランティアにも月に2回ほど来てもらい地域交流をしています。現在はコロナ禍の為行っていませんが、地域の情勢を見ながら再開していく予定です。	地域との関わりは、コロナ禍で制限されています。小学校の運動会、お八朔祭りなど地域のイベントに参加されたり、ボランティア等の受け入れも多くされていました。現在は感染予防をおこないながら、何ができないか地域との関わりを検討されていました。関わりは行えていませんが、お花見や散歩は行われていました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を中心に認知症についての理解の支援を行っています。 回覧板などを利用し、地域の皆様に認知症についての相談を受け付けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会では、現在のGHの運営状況、活動内容などを報告し、委員の意見や要望などを聞きながらサービス向上にいかしています。 現在は都留市介護保険課と書類と電話にて話し合いをしています。	運営推進会議は、家族、地域の自治会代表、行政等の参加を仰ぎ活動報告、地域イベントのお誘い、地域の高齢者状況、施設の様子事故報告が行われていました。この地域は高齢者が多く行政と協力され、介護相談ができればと回覧板を利用され地域とつながりを深めていました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当とは常に情報交換を密にとり、報告や指導、助言を受けています。 ・都留市開催の研修なども参加し、市の担当者とも顔の見える連携をとっています。 現在は電話、メール等で連携を図っています。	市町村とはコロナ禍のため思うような会議は行えていませんでしたが、担当者や情報の交換を密にされ地域の現状を把握されていました。事業所の「真心通信」等でサービスの取り組み状況を発信し、連携を持たれていました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束委員会を立ち上げて拘束委員会会議などを開催し、活動しています。指針に基づいての活動、職員に研修などをおこなっています。 ・日々のケアでも職員同士が身体拘束につながらないように意見交換しています。	身体拘束をしないケアには力を入れ「身体拘束委員会」を立ち上げ、研修会や、どんなことが問題か、スピーチロック(言葉の拘束)をしていないかが議題とされ、日常のケアを見直し、利用者向き合う取り組みをされていました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待については管理者、職員同士が話し合いなどを通じ、虐待に関する知識、認識を深め虐待防止に取り組んでいます。 ・虐待について気づいたこと話し合い、意見交換をしています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については、職員が県、市町村の研修に参加したり、市町村の担当者と必要時に報告、連絡、相談をし情報共有をしています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、自宅訪問または直接施設に来てもらい、契約の締結、解約の説明、重要事項の説明をし、同意を得ています。 ・本人、家族に不安、疑問がある場合には納得に行くまで話し合いをし、理解を得ています。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の来所時にサービスの内容、日ごろの様子などを話をしています。その際には、家族、本人の意見やご指摘を組み合わせるようにしています。 ・利用者、家族の意見、不満を聞けるように入口に意見箱を設置しています。	利用者や家族の意見は、意見箱の設置や訪問時の聞き取りなどで反映されていました。家族からは外出を希望される意見が多いのですが、コロナ禍の為できていません。テイクアウトや誕生会、事業所内のイベント等は企画されていました。家族への理解には写真を載せた真心通信等でお知らせされていました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年2回全スタッフに対してアンケートを実施し、管理者と面談を行っています。管理者との面談は個々に必要に応じて行っています。 ・毎月法人全体で代表者会議を開催し、職員の意見を反映できるようにしています。	スタッフが常に相談できるように、管理者でなくトップと年1回の面接を行っています。法人内の異動の希望も対応されています。管理者はスタッフの意見が反映できる様になっていました。		スタッフが利用者と長く関われるよう一層の環境整備をお願いいたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回施設長の面接に実施で、努力目標や実績評価、業務の要望などを聞き取り等を行っています。 ・法人全体で勉強会などを開催し、向上心を失わないように楽しく働けるように努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部の研修の参加および内部の研修(認知症研修、感染研修などに)参加しています。 現在はコロナ禍の大人数での研修は行っていません。リモート研修などに参加しています。 ・資格試験には資格取得のための研修費を負担しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修時には他施設職員、ケアマネージャと積極的に交流し、意見交換をしています。 ・他施設の訪問を受けたり、意見交換をしたりしています。現在はコロナ禍のため行っていません。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・管理者が自宅、他施設に訪問し、現在本人が困っている事、不安に思っている事を伺っています。入居前には直接施設に来てもらい、いろいろな相談を受けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に管理者が家族が困っている事、不安に思うことなどを、施設に来てもらい、直接伺っています。 ・家族との連絡を密にし、家族に不安、要望などを傾聴し理解しながら安心して頂けるように配慮しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・見学、相談際には介護サービス利用に向けて不安や相談を受けています。 本人家族に寄り添った介護サービスの提案をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者、職員が「ともに生活する」という考え方で、介護するのではなくできない所だけ手伝いをするケアをさせてもらっています。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者を中心に家族、職員が密に連携をとりお互いの思いを共有しながら支援しています。 ・家族とに絆が深まるよう積極的に外出、外泊を支援しています。 コロナ禍のため外出、外泊は行っておりません。 ガラス越し面会を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・近所になじみの商店街に出かけたり、馴染みの理容店、八百屋を利用しています。 ・馴染みの人との面会を積極的に支援しています。 コロナ禍のため行っておりません。ガラス越し面会を実施しています。	積極的に地域とのかかわりを持つ、今までの生活を大切にされています。コロナ禍のため面会等は玄関で窓越しに行ったり、電話を活用されていました。コロナ禍で何が行えるのか検討されていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者の尊厳、生活歴、個々の生活などを考慮しながら利用者同士が良好な関係が作れるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された利用者は、同法人内の特養入所が多いので情報共有、連絡、相談を行っています。 ・退所後のご家族の相談も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや生活歴把握しながら職員同士話し合いを持ちながら支援しています。把握が困難な場合には管理者、職員が話し合い本人に合ったケアを検討しています。	現在は自立度の高い利用者が多く、自分の意向をはっきり伝えることができ、また自分でできています。スタッフは利用者の目の動きや体の仕草等で思いを汲み取り、管理者や共有ノートで周知を図っていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族に情報、本人の何気ない会話からその人のがどのように生活していたかを把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の日々の過ごし方、心身の状態等を観察し、その都度記録しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の職員同士のミーティング、担当者会議等で意見、アイデアを出してもらい介護計画に反映しています。	管理者やケアマネジャーはケア現場に入り、スタッフから利用者の様子を聞き、介護計画やモニタリングに活用されていました。介護計画は本人や家族の意向を大切に尊重する計画を立てていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活の様子や特記事項などは介護記録に記入し、その情報を基に職員同士が情報共有、意見交換し介護計画を見直しています		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、ご家族の希望を取り入れ、その状態に応じたサービスの提案をしています。 ・本人、家族のニーズに対応できるようにしています。特に医療連携などは積極的に行っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くの馴染のある商店街に出かけたり、レストランなどに食事に出かけています。 ・月に2.3度に地域のボランティアにきてもらっています。(和太鼓、日本舞踊など) コロナ禍のため行っておりません。今後はコロナの情勢を見ながら再開する予定です。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の意向が添うように、往診医、専門医と連携を取りながら支援しています。 ・家族、本人の意向により現状は施設の往診医(内科)が主治医となり支援しています。	利用時に本人家族に医療支援の確認を取り、法人で行っている医療機関を活用していました。利用者の希望で他の医療機関の利用を希望されている方には、事業所での体調管理状況を事前に伝え、結果も報告を受けていました。法人の往診医での様子は、必要に応じ家族に伝えられていました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々、併設の特養看護師と連携を取りながら適切な看護、医療が受けられるように支援しています。 ・往診医と連携をとりながら医療的な支援をしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時は各医療機関のSWや看護師と情報共有し、連携しています。入院時もケアマネが病院を訪問し、本人、家族の要望、相談に乗っています。 ・近隣の各医療機関のSWとの関係作りを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、終末期のありかたについて入所時に事業所としての方針を説明しています。また、家族の考え方についてもその都度確認しています。 早い段階から終末期の方針を情報共有し病院移転や特養の転居などを提案し、支援しています。	入所時にターミナルケアの確認を、利用者・家族と行い希望を確認されていました。建物の2、3階は特別養護施設が併設され、看取り看護の協力もできていました。看取りは行っていますが、医療ケアの整った施設を希望されるので、可能な施設と協力体制もできています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変や事故発生に備えて、適切な応急処置や救急対応ができるように話し合い対応しています。 ・緊急時には同施設内の職員にも応援してもらうように体制を整えています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災を想定した訓練を併設の特養と年2回避難訓練を行っています。夜間を想定した「避難訓練もGH職員で実施しています。	災害時の避難訓練は特養と協力して行われていました。この地域ではハザードマップによる自然災害はありませんが、地域との災害時の協力は隣接に避難場所の小学校があり、高齢者の災害時の受け入れをコロナ禍以前は検討されていました。地域との避難訓練も協力していく体制を検討されていました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者ひとり一人の人格を尊重して利用者のプライドやプライバシーを損ねないような言葉使いをしています。 ・ケアファイルは外部の人の目がふれないようにしています。	各居室にはトイレが整備され、一人ひとりのプライバシーを尊重されていました。入浴時はほとんど自立されています。介護が必要な方には同姓介護がされていました。言葉かけや関わりで、個々のプライバシーや尊厳を尊重する取り組みを行っていました。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユニタ名() ・様々な場面で、本人の意思決定が出来るような声掛けおこなっています。本人の意思を尊重してケアを行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者本位の日々の暮らしができるようにケアしています。利用者がやりたいこと、出来ることを職員同士が意見交換しながら日々の暮らしを送っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等は家族に協力してもらい馴染の衣服、おしゃれな衣服を用意してもらっています。 ・出張販売などを利用してもらっています。現在は出張販売はコロナ禍のため行っておりません。今後は情勢を見ながら再開していく予定です。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ミニ菜園で収穫した野菜、家族、職員が持ってきてくれる野菜等季節に応じた旬の食材を提供しています。 ・食事のかた付けなどは、利用者が率先して手伝ってくれます。 ・献立はその日に利用者が食べたいものを作るようにしています。	楽しみの一つの食事は、ミニ菜園や頂いた野菜を使った家庭と同じような献立になっていました。誕生日会、季節にあった行事食、出前食等工夫されていました。またできることは一緒にと、盛り付けや食器洗い、片付けを役割として参加していました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者ひとり一人に応じた食事量を提供しています。利用者の体調に応じたキザミ食、お粥など提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食事後の口腔ケアの口腔ケアの声掛けを行っています。菌磨き後には職員が菌磨きチェックをしています。 ・必要に応じて協力歯科医の往診を行っています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の失敗が無い様に一人一人に合わせた排泄パターンを把握して誘導を行っています。	排泄は、布パンツ、リハビリパンツ、オムツと個々にあったケアが行われていました。入院時は紙パンツを使用していたが、退院後しばらくして布パンツになることができた等排泄ケアに力を入れていました。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・定期的に自然排便が出来るような適度な運動、食事、水分摂取を行っています。 ・便秘がひどい場合には、看護師、主治医と相談しながら対応しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週2回と決めているが、本人の希望があれば入浴したいときに入浴してもらっています。	入浴は最低2回を行っていますが、寒くなるとなかなか入浴されないのが、毎日声掛けし希望の時に入るようにしていました。機械浴は設置されていませんが、必要な時は特養との協力ができていました。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人一人の生活習慣に合わせて、本人のリズムに合わせて静養してもらっています。特に消灯時間は決めておらず本人のペースに合わせています。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム真心の里

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・確実に内服できるように職員全体が薬の目的などを理解して介助しています。 ・体調の変化が見られた場合には、主治医に連絡し、指示を受けています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節の行事やボランティアなどを活用して楽しみ事を支援しています。 ・日々の仕事に張り合いがあるように出来ることを探して、家事手伝い、ウエス作りなどを行っています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・場所柄なにげなく外に散歩できる環境なので、希望により近くの小学校、商店街等に行き地域の皆さんとあいさつしたり、会話をしています。 ・現在は外出制限を行っております。最近施設の駐車場などで外気浴を初めています。	外出は家族の希望もあり積極的に行っていましたが、コロナ禍のため人混みを避け、散歩やドライブを行っていました。スタッフはいろいろ検討され安全かつ楽しみとなる事を提供されていました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭は基本的に管理者が行っているが、本人希望家族の了承によりお金を所持している利用者もいる。 ・近所の商店街では職員と一緒にいき、個人で支払いすることもある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙や電話は自由にできるよう支援しています。 ・事務所の電話などを利用し、本人の希望があれば自由に連絡が取れるように支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を感じられるような作品を利用者と一緒に作成しています。利用者が快適と感じられるように音、温度明るさに配慮しています。	落ち着いて広々とした明るいデイルームには、みんなの作品が飾られています。街中の為商店や家々が立ち並んでいますが、遠くの山並みはほっとする思いです。3階からは富士山も見え穏やかに過ごせていました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有スペースでは気の合った利用者同士でゆっくり過ごせるように支援しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で生活しているように、本人自宅にあった家具、馴染みの物を持ってきてもらい自分らしい居室にしております。	今までの生活を大切にされ、本人の思い出となる品物が持ち込まれていました、日常の食事で使われていた茶わんや御椀、湯のみ、箸を持っていました。仏壇や写真を持ち込み家族との想いを持たれていました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は全面バリアフリーになっています。トイレ、廊下、浴室には手すりがついています。			